人権コラム　心、豊かに

◆ ワンオペ育児からの脱却

2010 年の新語・流行語トップテンに選ばれた『イクメン』。積極的に育児に関わる男性を表すこの言葉が社会に定着しつつある中、「子育ての実態は変わっていない！」と訴えるかのように、『ワンオペ育児』が 2017 年の新語・流行語にノミネートされました。

“ワンオペ” とは、飲食店などで一人の従業員が全ての業務をこなす“ワンオペレーション”を略したものです。つまり、『ワンオペ育児』とは、家事や育児をひとりでこなす状態を表します。

総務省の「社会生活基本調査」でも、相変わらず女性が家事や育児を担っていることが証明されています。6 歳未満の子どもを持つ夫と妻の家事・育児時間の合計を見ると、平成 23 年は「夫：51 分、妻：6 時間 57 分」、平成 28 年では「夫：1 時間 6 分、妻：6 時間 52 分」。5 年間で男性が 15 分長くなり、女性が 5 分短くなったものの、依然として男性の 6 倍以上の時間を女性は家事と育児に費やしています。

しかし、厚生労働省が発表した「仕事と育児の両立に関する実態把握調査」の企業結果を見ると、単に男性が家事や育児を軽視している訳ではないことがわかります。「育休を取得しやすい（職場の）雰囲気」があると感じているのは、男性：25.2%に対し、女性：79.3%と大きく差が開いています。企業は男性の「仕事と育児の両立支援」について、55.9%がその必要性を感じているようですが、実態は企業の約 7 割が「男性が休暇を取得しやすい環境づくり」に着手できていないばかりか、「育児参加促進の取組」に至っては 8 割を超える企業が何も行っていない状況です。

これまでに、育児休暇や短時間勤務制度など社会的制度は整ってきましたが、いまだに男性が制度の利用に踏み込めない状況が続き、結果として職場の理解が得られやすい女性が働き方を調整するのが現実のようです。

年も新たになりました。

家庭も企業も『ワンオペ育児』からパートナーや地域などで協力して子育てを行う「チーム育児」に舵を切り、2018 年の新語・流行語に『チーム育児』が選ばれる―。そんな明るい一年が願われます。

「広報ひた」　平成 30 年 1 月 1 日号掲載